

ブラジル金融政策（2026年6月）

3会合連続の利下げ

2026年6月18日

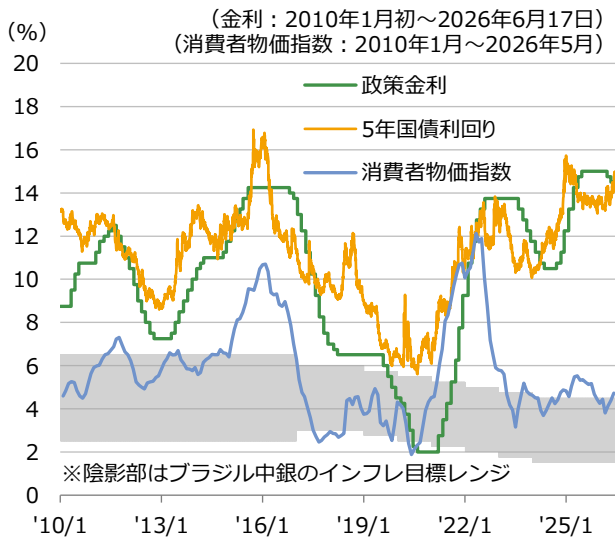
インフレ率の実績と見通しが上昇する中、先を見据えて利下げを継続

ブラジル中央銀行は6月16～17日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を14.50%から14.25%に引き下げることを選定しました。利下げは3会合連続です。

燃料価格の上昇や国内経済の想定以上の底堅さを背景に、インフレ率（消費者物価指数・前年比）は5月に+4.7%と、インフレ目標（ $3\pm 1.5\%$ ）のレンジ上限を上回りました。さらに中銀は、現在の金融政策のターゲットである2027年10-12月期のインフレ率の見通しを+3.7%と、前回時点の+3.5%から上方修正しました。しかし、ここに焦点を当てた政策を実施すると、次回会合から金融政策のターゲットとなる2028年1-3月期のインフレ率は目標を下回る見通しになると説明しました。したがって、今回利下げしなければ逆に次回以降は大幅な利下げが必要になった可能性などが考えられます。中銀は今回の決定が「物価安定の確保という根本的な目標を損なうことなく、経済の変動を緩和し、完全雇用を促進することにもつながる」と述べ、インフレ率の実績と見通しが上昇する中での利下げを正当化しました。

依然として政策金利はかなり引き締め的な水準にあるとみられ、今後も金融政策の方向性は利下げと考えられます。ただし、不確実性の高さは中銀も認めるところであり、追加利下げのタイミングや規模は今後のデータ次第です。米国とイランの和平合意による原油価格の行方や、引き締め的な金融政策と拡張的な財政政策に伴う経済の反応、エルニーニョ現象による食料品価格への影響などが注目されます。

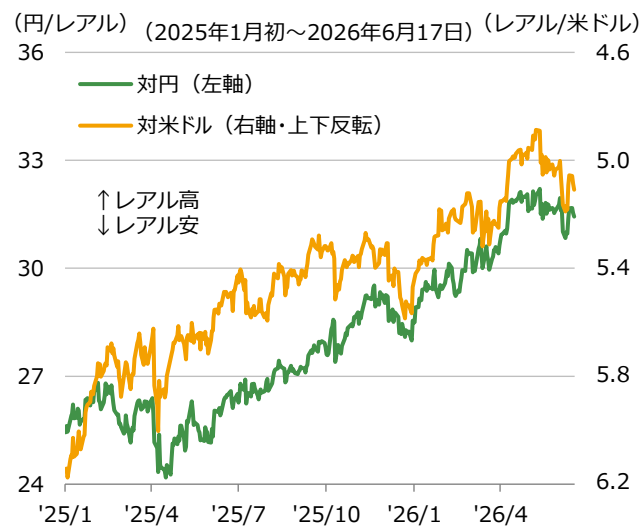
ブラジルの金利とインフレ率



※消費者物価指数は前年同月比

(出所) ブルームバーグ、ブラジル地理統計院、ブラジル中央銀行

ブラジル・レアルの対円・対米ドルレート



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。